

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

***ハレー彗星地球大接近 1986・4・11 のテレホンカード収蔵**

今回も平成24年3月に天文台を去った山下芳子女史から譲られたものである。今回は「ハレー彗星地球大接近 1986・4・11 のテレホンカード」というテレホンカード(写真1)である。このテレホンカードは東京天文台・国立天文台の何かを記念して発行されたものではなく、NTT独自に発行したものと思われる。



写真1 ハレー彗星地球大接近のテレホンカード

このハレー彗星地球大接近は1910年(明治43年)のハレー彗星の出現時の壮大な眺めから予想されていた見え方とは違い、空の暗い地方でやっと見える程度ではあったが大きなニュースになりこのようなテレホンカードも発行された。

筆者も幼い子供を車に乗せて千葉県九十九里まで出かけたことを思い出す。筆者が感激した彗星は、東京天文台岡山天体物理観測所にいた1965年頃、明け方の東の空に現れた池谷・関彗星を見た時であった。岡山天体物理観測所の188cm望遠鏡ドームの向こう、瀬戸内海の上にその雄大な彗星(写真2)を眺めたのである。

ハレー彗星は76年周期で現れる周期彗星で、次は2062年、50年後にはまた出現する。その時の状態の予報はあるかもしれないが、筆者はさすがに最早この世にはいない。

東京天文台では、木曾観測所、堂平観測所でハレー彗星の写真が撮られており、これらは1910年時代とは違い大きな望遠鏡で撮影されているので見事な雄姿で見ることが出来た。1910年に出現した時、当時麻布にあった東京天文台では平山信らが20cmf=1203mm、8.7cmf=254mm、3.2cmf=78mmの3台のカメラを使用し、4月20日から6月7日までに44枚を撮影した記録が残っている。当時の春、天気の良い当時の満州に遠征して早乙女清房ら

が 15cm 屈折赤道儀に 10cmf=882mm、7.8cmf=245mm、3.9cmf=144mm の 3 台のカメラを同架して 5 月 6 日から 6 月 11 日までに 90 枚を撮影したとの記録がある。

現在アーカイブ室では、1945 年（昭和 20 年）の本館火災で焼失したと思われていた戦前の写真乾板を発見しているので、これらの写真も出てくるのではないかと期待している。



写真 2 1965 年の池谷・関彗星

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp